

平成 31 年度 学校経営計画及び学校評価

1 めざす学校像

＝ 聴覚障がい教育における全国の後期中等教育の基幹校としての役割を果たす ＝

【めざす学校像】

○変化を怖れず挑戦する学校 ○地域にグローバルに開かれた信頼される学校 ○みんなが安全で安心できる学校

【めざす生徒像】

○生き活きた活力のある生徒 ○チャレンジ精神にあふれた生徒 ○互いを助け、ともに生きる生徒

安定した心の形成（自己形成）を土台に ・ 地域とつながる ・ グローバルにつながる ・ 安全安心で
情報保障の充実した学習環境での ・ 基礎学力の定着、発展による ・ 進学、就職の実現
《ことば》 《たいけん》 《きもち》

2 中期的目標

(1) 聴覚障がいのある生徒一人ひとりの状況に応じた教育の推進

■ 社会的自立に向けた教育の推進

- ・ 自律・自立心を持ち、実行力・実践力のある生徒、自己管理のできる生徒の育成を図る。
- ・ 自分と同じように、他者を認め大切にする生徒の育成を図る。

■ キャリア教育の充実、発信

- ・ 丁寧な進路指導と納得できる進路の実現を図る。
- ・ これまで積み重ねてきた本校のキャリア教育の実践を視覚化する。

(2) 生徒、保護者の思いに寄り添う学校づくり

■ みんなが安全で安心できる教育の推進

- ・ 地域やPTAと連携した緊急連絡体制や災害対応、不審者対応等の充実を図る。

■ 地域とつながる教育の推進

- ・ 地域に根ざした学校づくりを進め、青年期の課題啓発・改善を図る。

■ 聴覚障がい教育の基幹校としてのセンター的機能の充実

- ・ 地域連携支援室（D-center）を中心に、地域支援や理解啓発活動の充実を図る。
- ・ 学校紹介等の広報活動を継続的に行う。

(3) ユニバーサルな教育環境の実現とより質の高い教育の提供

■ ICT機器等(タブレット型PC・文字情報システム・電子黒板等)の活用を含む教職員の資質・専門性の向上(授業力向上、教材開発等)

- ・ 聴覚障がい教育における情報保障の充実した環境を研究し整備する。
- ・ 聴覚障がい教育における授業改善のあり方を研究し充実を図る。

【学校教育自己診断の結果と分析・学校運営協議会からの意見】

学校教育自己診断の結果と分析 [令和元年12月実施分]	学校運営協議会からの意見
<p>回収率・・・生徒 98%、保護者 90%、教員 100%</p> <p>満足度・・・生徒 76.8% (78%)、保護者 91.5% (90%)、教員 85.1% (83%)</p> <p>※ () 内は平成 30 年度</p> <p>【生徒】昨年度と比較して、やや低下 「他校との交流や、共同学習」について低下しており、設立後毎年継続して行っている行事であるが目的や内容について検討が必要。 また、「授業の内容がわかりやすい」の設問で低下したことについて、具体的に進度・内容・授業方法について検討が必要である。「生徒自治会活動」は今年度改善が見られた。体育祭・文化祭などで新しい企画を行ったことで効果が出ている。</p> <p>【保護者】昨年度と比較して、大きな変化はなし。おおむね高い評価をいただいている。「補聴器や聴力測定についての相談」についてのポイントが低下した。が、一方で「丁寧な相談対応」の項目は上昇した。ニーズを把握し、学校全体で丁寧な保護者対応をこれからも心掛けていく。</p> <p>【教職員】昨年度と比較して、大きな変化はなし。 「教育課題について日常的に話し合う」の設問で上昇がみられたが、個別の教育支援計画の活用について、あまり浸透していない結果になった。今後、活用方法など検討が必要である。 防災対策を含む学校の健康管理について、高ポイントを維持している。教職員の手話技能向上のための手話講習会についてのポイントは減少した。効果的な回数・日程・内容について検討したい。</p>	<p><第1回 令和元年7月2日(火) 15:30~16:55></p> <p>■「聴覚障がいのある生徒一人ひとりの状況に応じた教育の推進」について主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ キャリア教育に力を入れているのは良い。仕事へのモチベーションを上げる指導が大切。 ・ 手話はコミュニケーションツールとして、業務を正確に伝えるには限界がある。読み取る読解力や短くまとめてPCに入力する筆談力があれば非常に戦力になる。 ・ 資格も大切だが、職場で生かせずもったいない。コミュニケーション力が必要である。 <p>■「生徒、保護者の思いに寄り添う学校づくり」について主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ ICT技術の進歩についていき、活用できれば聴覚障がいのある方ももっと前進できると思う。大学進学や教師になるなど、前向きな生徒が増えてほしい。 ・ 特に具体的な進路先をだいせんの進路実績としてもっとPRすべきだと思う。 <p><第2回 令和元年11月18日(月) 10:00~11:30></p> <p>■「聴覚障がいのある生徒一人ひとりの状況に応じた教育の推進」について主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 高大連携で関西大学のアドベンチャー施設にて、家族以外の人とのコミュニケーションができる機会として、良い経験となっている。 <p>■「生徒、保護者の思いに寄り添う学校づくり」についての主な意見</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 防災訓練について、マニュアルばかりでなく実地訓練の方がよい。実際に災害が起こった時に動けるかどうか、課題である。 <p>■その他の報告・意見等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 令和2年度に使用する教科用図書を、府教育庁に提出し、採択した。 ・ 全国的に聴覚障がいのある生徒が少なくなっており、本校は高等部単独でもあるので、本校独自のPR方法を考えていかななくてはならない。 <p><第3回 令和2年2月3日(月) 10:00~11:30></p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 「平成31年度学校経営計画及び学校評価」、「令和2年度学校経営計画案」を承認する。 ・ 手話力上は、教員の授業力向上や生徒の社会性向上において重要であり一層の推進必要。 ・ 学校自己診断で満足度が低い項目は、内容を精査して工夫改善する必要がある。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
聴覚障がいのある生徒一人ひとりの状況に応じた教育の推進	<p>(1) 社会的自立に向けた教育の推進</p> <p>ア 自律・自立心を持ち、実行力・実践力のある生徒、自己管理のできる生徒の育成</p> <p>イ 職業教育の充実</p> <p>ウ 自分と同じように、他者を認め、大切にできる生徒の育成</p> <p>(2) キャリア教育の充実</p>	<p>(1) ア・学習指導要領の改訂をふまえた教育課程の検討</p> <ul style="list-style-type: none"> ・自学自習、自立・自律を推進し、放課後学習等の継続的な取組を実施する。 ・教育課程に応じた教科書及び副読本の選定 <p>イ・職業科専門性に応じた教育の推進</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育環境の保障 ・資格取得の推進 <p>ウ①・多文化共生教育の推進 国際交流、高大連携、地域連携の実施</p> <p>②・人権尊重の教育の推進 人権作文、人権LHRへの取組み</p> <p>③・性教育の推進</p> <p>(2) 丁寧な進路指導と納得できる進路の実現</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「先輩の体験を聞く会」 ・学年別職場見学会の実施 ・生徒の成長に合わせた職場体験実習 ・「障がい者就職面接会見学」(専攻科I年) ・進路説明会・保護者懇談 ・就職に向けての指導・定着指導・アフターケアの充実 ・大学進学者に対しての卒後相談 	<p>(1) ア・定期的カリキュラム検討委員会を開催し、本校の状況に応じた各学科、教科新たな教育課程の編成を検討する。(年間18回実施)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・図書室の学習環境の整備を更に行い、学習の場として提供する。学校教育自己診断「図書室利用」(生徒肯定評価40%以上)(H30 39%) <p>イ・学校教育自己診断において</p> <p>「資格取得に積極的にチャレンジしている」(生徒肯定評価70%以上、H30 74%)</p> <p>ウ①・国際交流、高大連携、地域連携に関する各生徒体験プログラムを計画、実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国際交流については、「アメリカ手話講座」(年2回以上)の開講や外国人英語指導アシスタントとともに授業を受ける機会を年10回以上設ける。 ・高大連携については、関西大学堺キャンパスとの交流を年2回以上行う。 <p>②・国語科を中心に、「人権作文」に取り組み、コンクールへも応募する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昨年度の実施内容をふまえ、本科、専攻科の各学年で、状況に応じた「人権LHR」を年3回実施する。 <p>③・性に関する講習会の実施(※本科3年生を対象)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・②③について学校教育自己診断 <p>「命の大切さや社会のルールについて学ぶ機会がある」(生徒肯定的評価85%以上、H30 88%)</p> <p>(2)・学校教育自己診断において</p> <p>「将来の進路や生き方について考える機会がある」</p> <p>「進路に関する必要な情報を十分提供」</p> <p>「希望する進路について丁寧に指導」についてそれぞれ(生徒肯定的評価80%以上)</p> <p>「進路指導は適切」(保護者肯定的評価80%以上、H30 92%)</p>	<p>(1) ア・令和4年度の全面改訂に向けて検討委員会内訳は各教科22回、普通科6回、全体6回、計31回(◎)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・6月に図書室に個別の学習机8台、テーブル3台を設置し、自学自習しやすい環境を整えた。(○) 図書室利用肯定的評価34%(△) イ各種資格取得に向けて、補講等を積極的に行う等、取得の促進支援を行った。生徒肯定的評価67%(△) ウ①T-NET 外国人英語指導アシスタント活用は、月2回、年間17回実施。(◎) ・高大連携は10月に1回、2月に1回実施(○) ②高等学校課主催「人権作文」コンクール、優秀賞1名受賞。堺市主催「第40回わたしからの人権メッセージ」特選1名、入選1名受賞。(◎) ③2月に1回実施 <p>生徒肯定的評価87%(○)</p> <p>(2) 進路指導について、生徒肯定的評価80%、保護者肯定的評価89%(○)</p>
	生徒、保護者の思いを寄り添う学校づくり	<p>(1) みんなが安全で安心できる教育の推進</p> <p>ア 防災等の対応の充実</p> <p>イ 地域とつながる教育の推進</p> <p>ウ 「聴覚障がい教育」のセンター的機能の充実</p>	<p>(1)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職員が連携・協力した業務の効率化の推進 <p>ア・地域やPTAと連携した聴覚障がい者のための防災対応の整備・充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒への防災教育の充実 <p>・教職員・PTA・卒業生に向けた防災研修の実施</p> <p>イ・地域の方を対象とした「手話講座」初級・中級の実施</p> <p>ウ・地域連携支援室(D-center)の活動の充実</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域小中高教員の聴覚障がい教育の理解啓発 ・地域中学校・高等学校に向けての情報発信 	<p>(1) 毎月の職員会議で時間外勤務の状況を報告し、意識化を図る。</p> <p>ア・防災委員会を中心に、災害時の学校対応について検討する。(防災マップづくり、避難所リスト作成、教職員向け防災研修等)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒の意識向上を図るため、昨年度の実施内容をふまえた防災LHRを年2回実施する。 ・外部に手話通訳等を依頼し、情報保障を確実に行う。 ・学校教育自己診断において「災害時対応が分かる」(生徒肯定的評価90%以上、H30 98%) <p>イ・聴覚支援学校を会場とする特性を活かした「手話講座」を年10回以上実施する。</p> <p>ウ・地域連携支援室(D-center)を中心として、公開研修を年1回実施し、高等学校等とのネットワークを拡げる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・聴覚支援学校との連携を深める。(中高連携) ・外部講師を招いた教職員研修を年8回実施し、内1回を府内の聴覚障がい生徒に関わる教員に向けた公開研修とする。

府立だいせん聴覚高等支援学校

ユニバーサルな教育環境の実現とより質の高い教育の提供	<p>(1) 職員の資質、専門性の向上（授業力向上、教材開発等）</p> <p>ア 「聴覚」「高等」「支援」学校としての授業改善</p> <p>イ 「聴覚」「高等」「支援」学校としての「聴能」指導</p> <p>ウ 生徒の筆談力（文章力）養成を目的とした指導力向上</p>	<p>(1)</p> <p>ア・聴覚高等支援学校における授業改善に関する研究の実施</p> <p>・学力向上に向けたタブレット端末と文字情報システムを活用した授業研究の実施</p> <p>・タブレット端末アプリや電子黒板・プロジェクト等を活用した「分かりやすい授業」の実践</p> <p>・表現力や記録する力を伸ばすためのICT機器の活用、校内研修の充実</p> <p>ア・ICT機器を活用した校内研修の充実</p> <p>イ・教員の手話力の向上</p> <p>ウ・生徒の筆談力の向上のための授業改善</p> <p>・従来の朝ドリル（国語・計算・英単語等）を生徒の文章力向上の観点で改善・活用</p>	<p>(1) ア・授業改善に関する研修を実施する</p> <p>・学校教育自己診断において「授業の内容が分かりやすい」（生徒肯定的評価80%以上、H30 90%）</p> <p>・「授業でICT機器を使うなど、教え方に工夫」（生徒肯定的評価80%以上、H30 86%）</p> <p>・生徒向け活用度アンケート「タブレット型PCの生徒活用状況と理解度」（生徒肯定的評価92%以上）（H30 91.7%）</p> <p>イ・教員向け手話講座を年間10回実施</p> <p>ウ・「社会で必要となる力としての筆談力養成」をテーマに授業研究を行う。</p> <p>・「ダイザップ」年間3回以上発行（※ダイザップとは、生徒の筆談力向上を目的とした、本校研究部編集の教員向けテキスト）</p> <p>・改定版 朝ドリルの有効活用</p> <p>学校教育自己診断において「朝ドリルは文章力向上に役立っている」（生徒肯定的評価75%以上）（※H30 同診断の項目なし）</p>	<p>(1) ア・初任研や10年研対象者を中心に研究授業、指導教諭の公開研修1回実施。</p> <p>生徒肯定的評価「授業内容」80%（○）、「教え方工夫」90%（◎）、「PC活用」90%（○）</p> <p>イ・外部講師活用を含めて校内研修を22回実施（◎）</p> <p>ウ・各教員は生徒の筆談力養成を目的に、授業づくりを積極的に実施中（○）</p> <p>・「ダイザップ」は3回発行（○）</p> <p>・朝ドリルの有効活用度 生徒肯定的評価58%（△）</p>
----------------------------	--	--	--	--